

令和2年度 川崎小学校 研究デザイン



令和2年度学力向上推進計画

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立川崎小学校

I めざす子ども像

「深い学び」を実現できる子どもの育成
(研修目標) 一人ひとりの子に「深い学び」を実現する力を育む～確かな「ふり返り」を通して～

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

※内部の欄に記入

III 指導改善のための計画 (ポイント)

<学力に関して>

- ① 「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を目指した指導改善
- ② 習得、活用、探究という学びの過程による「深い学び」を実現する力の育成を目指した指導改善

<学習・生活の状況に関して>

- ・家庭・地域との連携・協働による学びの充実
- ・一人ひとりの子に応じた教育の充実

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

- ① 授業ごと、単元ごとに「ふり返り」の時間を確保する。
 - ・言語活動の充実を図る「川小版 学びのスタイル」を共有し、指導と評価の一本化された授業改善を行う。
 - ・「川小版 学習規律」を共有し、学習の順義や身構え、心構えを共通認識して指導の徹底を図る。
- ② 各教科の学習過程において習得、活用、探究という学びの過程による問題発見・解決学習を行う。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

- ・毎月、補充学習の日を設定し、基礎基本の定着を図る。
- ・児童が、学びの深まりや学びによる自らの変容がわかるように、具体的なふり返りの視点を設定する。
- ・授業研究を中心に、全教員が主体的対話的で深い学びのある授業のありかたを探り、指導力を高める。
- ・4、5年の算数で習熟度に応じた効果的な少人数指導を進める。

<指導力を高める研修の推進>

課題の共有

- ・児童の実態や学習指導要領を踏まえて、求められている力や、課題を把握し、指導のねらいを共有する。

授業改善

- ・上記した授業の改善と省察を行い、授業づくりに関する教職員の力量を高める。

一人ひとりの子に応じた教育の充実

- ・授業づくり、学級づくり共通認識を図り、仲間づくりを行う。
- ・Q U やいじめアンケート、S S T などの実践や研究などを通して、子ども理解・支援などに関する教職員の力量を高める。

<家庭・地域との連携の強化>

家庭との連携・協働

- ・学力に関する課題の共有
- ・家庭学習の手引きの配布、「自学自習」の習慣化により、家庭学習の充実を図る。

地域との連携・協働

- ・地域関連学習によって、地域の歴史、文化、人材を活用した学習を行い、地域とのつながりについて考えたり地域に資する活動を行ったりする。

研修日程 (未定内容含む 随時追加更新あり)

月日	内容
4月10日(金)	・今年度の研究内容について ・保健関係「アレルギーについて」「校内保健環境整備について」 ・給食関係「アレルギーについて」「給食指導について」
5月28日(木)	・今年度の研究内容について(総合的な学習の時間の指導過程について) ・亀山市学力向上推進計画について(前田指導主事) ・「魅力ある学校づくり」について・評価について
6月5日(金)	・習熟度別算数授業について(学力向上アドバイザー 田中指導主事) ・「わかる授業」を目指すための視点について ・評価と指導の一体化について
6月26日(金)	・習熟度別算数授業について(学力向上アドバイザー 田中指導主事) ・コースに応じた教材の工夫について ・習熟度別学習の具体的な進め方について
7月15日(水)	・「魅力ある学校づくり」について・ハラスメントについて
7月中	・仲間づくり関係 Q U 実施 ・Q U 自校打ち込みと分析(年間2回予定中の1回目) ・いじめを生まない学校づくりについて
8月3日(月)	・人権教育について(渡邊指導主事、前田指導主事)
8月5日(水)	・Q U 結果共有とアセスメントと対応策・ロイロノートの活用について
8月21日(金)	・危機管理マニュアルについて

8月27日(木)	・習熟度別算数授業について(学力向上アドバイザー 田中指導主事)
9月16日(水)	・6年授業研究(授業者:赤坂)事前検討会
10月7日(火)	・6年授業研究(授業者:赤坂)(前田指導主事)
10月14日(水)	・拠点校研究発表会 於:野登小
11月11日(水)	・亀山市教育研究推進協議会一斉研修会
11月25日(水)	・「魅力ある学校づくり」について
12月23日(水)	・ハラスメントについて・いじめを生まない学校づくりについて
1月13日(水)	・亀山市教育研究推進協議会一斉研修会
1月15日(金)	・低学年(1~3年)授業研究(授業者:未定)検討会
1月27日(水)	・低学年(1~3年)授業研究(授業者:未定)(前田指導主事)
1月中	・仲間づくり関係 Q U 実施 ・川小道徳スタイルについて
2月中	・Q U 自校打ち込みと分析(年間2回予定中の2回目) ・いじめを生まない学校づくりについて ・評価と指導の一体化について ・亀山市 国語確認テストの検証 ・今年度のまとめ
3月	・来年度の研修について



令和2年度学校経営方針

亀山市立川崎小学校

1. コミュニティスクールとしての基本理念
- 地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成 -
2. めざす学校像 **ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校**
 - 保護者・地域と情報共有しながら協働し、大人も子どももつながる
 - 豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する
3. めざす学校像実現に向けた重点目標 **★地域全体が学校★**
 - (1) 保護者・地域との連携・協働で、特色ある教育活動と安心安全な学校づくりを進めます。
 - 学校運営協議会を中心とした保護者や地域に開かれた学校運営
 - 「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」「くろぼくふれあい活動」
 - 目指す学びを共有し、地域の力を借りた地域関連学習と地域参画・地域貢献
 - 地域・家庭と連携した危機管理の充実(交通安全、防災防犯訓練の実施等)
 - 学校情報の積極的な発信
 - (2) 自分と仲間を大切に心と実践力を育む教育を進めます。
 - 「いじめを生まない」学校全体での組織的な取組
 - 子どもの居場所がある学級づくり、子どもと子どもをつなぐ仲間づくり
 - 子ども・保護者との信頼関係を基盤とした子ども理解・支援の充実
 - 自らの生き方に向き合う学習や自治活動・芸術活動等の充実による自己肯定感の向上
 - 保健指導・健康教育(眠るによる望ましい生活習慣、多様な食の学び)
 - (3) 学びの基礎を充実し、誰もがわかる主体的で対話的な授業へ改善を進めます。
 - 授業規律の確立 ○基礎学力定着・体力向上とその基盤となる生活習慣づくり
 - 家庭との連携協働による「自学自習」の習慣化
 - 「深い学び」を実現する授業改善 ○「書く力」・「読む力」の育成とふり返り活動の充実
 - 教職員が互いに学び合える研修の推進
 - (4) 教職員が子どもたちの教育実践に力を発揮できる環境づくりを進めます
 - 「明るく、仲良く、元氣よく」校務に取り組む職場風土
 - 月45時間、年間360時間の時間外勤務上限遵守と休暇取得促進
 - 学校ボランティア導入による業務負担軽減
 - 法令遵守意識の向上、ハラスメントの防止

4. 子ども像、教職員像

めざす川崎っ子像

- ① 「川崎小学校十か条」を実行する子
- ② 自ら進んで学習し、思いを伝え合える子
- ③ 違いを認め、受け入れる子
- ④ 心身共に健康で、命を大切にしている子
- ⑤ 自分と仲間、家族と地域を大切にしている子
☆やさしく、かしく、たくましく☆

めざす教職員像

- ① 児童理解に努め、自らの専門性と指導力の向上に励む教職員
- ② 創造的な発想と多くの対話で、教育課題に積極的に取り組む教職員
- ③ 開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を深める教職員
☆明るく仲良く元氣よく☆



令和2年度 川崎小学校 研究デザイン

教育大綱 基本方針一

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学び意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

子どもたちの学力や学習・生活の状況等 (R.1 学力学習状況調査より)

<学力に関して>

- ・国語、算数すべての領域で改善傾向にある。無回答率は全国の状況よりも良い。このことから、児童は主体的に学習に取り組もうとする力は向上しているといえる。
- ・国語も算数も記述式の問題の多くが全国平均を下回っている。このことから、習得したことを活用する力、思考・判断・表現する能力を高めることが課題であるといえる。具体的には、次の点での改善が必要である。

【国語】読み取ったことを根拠に、自分の考えを書くこと。

【算数】形式的処理の方法や理屈だけでなく、それを他の場面にあてはめて表現すること。

<学習・生活の状況に関して>

【教育活動に関すること】

- ・「授業内容を理解している」児童の割合は全国と同程度だが「日常生活に学習内容を使って考える」は下回っている。このことから、各教科で身に着けた知識技能を統合して課題解決にあたる場面の充実が必要であるといえる。

【豊かな人間性に関すること】

- ・地域行事への参加が多いが、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童が少ない。このことから、自分の居場所、仲間とのつながり、役割について考え、表現する場面の充実が必要であるといえる。

- 1 学校教育目標
「ふれあいを通して人と人がつながり 学びにあふれる学校」
・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる
・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する

- 2 研究主題
「一人ひとりの子に『深い学び』を実現する力を育む」
～確かな「ふり返し」を通して～

- 3 主題設定の理由について
これまで5年間「自ら進んで考え、共に学びを高め合う子どもの育成」を研修テーマに学びを深めてきた。その結果、子どもたちは自ら進んで考え、共に学びを高め合おうとする姿が見られるようになってきた。令和元年度の全国学力・学習状況調査でも国語、算数すべての領域で改善傾向にあり、無回答率は全国の状況よりも良かった。このことから、主体的に学習に取り組もうとする力は向上しているといえる。

しかし、国語も算数も記述式の問題の多くが全国平均を下回っており、国語では、「読み取ったことを根拠に自分の考えを書くこと」、算数では「形式的処理の方法や理屈だけでなく、それを他の場面にあてはめて表現すること」に課題が見られる。また、「授業内容を理解している」児童の割合は全国と同程度であるが、「日常生活に学習内容を使って考える」は下回っている。これらのことから、「習得したことを活用する力」、「思考・判断・表現する能力」を高めることが課題であるといえる。そのために、各教科で身に着けた知識技能を統合して課題解決にあたる場面の充実が必要であるといえる。

上記した本校の子どもたちの実態から、本年度は、学習の基盤となる資質・能力の一つである「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を目指し、「習得、活用、探究」という学びの過程による「深い学び」※1を実現する力を一人ひとりの子に育成したいと考え、研究主題を設定した。

「書く力」「読む力・読み取る力」はあらゆる学習過程において指導されるものだが、主に国語科と他教科等の学習活動とのつながりを意識して行うものなので、領域は国語科とした。また、「深い学び」は子どもの姿では見えにくいので、表現させることが必要であり、学習のねらいに沿って視点を示しつつ、子ども自身の評価としてふり返しを書かせることが大切だと考え、子どもの学びの変容は「ふり返し」※2によって検証していくこととした。

※1「深い学び」とは
子どもたちが自ら学ぼうとし（主体的）、それらの過程を通して（さまざまな対話を通して）、知識や技能が更新され、上書きされて、新たな考えや価値を得ること。

知識・技能が駆動する状態へと高めるためには、子どもたちが習得・活用・探究を意識した各教科等の学びのプロセスの中で身に付けた知識・技能を活用したり発揮したりすることが必要。これにより、子どもの中でバラバラに散らばっていた知識がつながり合い、構造化される。

「深い学び」の実現には、子どもが「なんでだろう」「どうしてだろう」と自問自答する探究的な学びのプロセスの充実が欠かせない。

※2確かな「ふり返し」とは
子どもが学習内容を既習の知識と結び付けたり、学習内容によってどのような自己変容があったかに気づいたりして、次の学びへの意欲につながるポジティブな余韻とともに、得たものを持ち帰れるようなふり返し。一定の長さの文章を書くことで、熟考を促していく。

「深い学び」が充実しているかどうかの手がかりは、子どもを見取ることである。その見取りとして「ふり返し」の質を一つの指標としてみていきたい。

- 4 研究領域・・・国語科、自立活動

中部中学校区研究主題

主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり

～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

中部中学校区では・・・

- ・実態として、友達同士のトラブルや学習意欲の低下、自己肯定感が低い児童生徒もいる。聞く力や話す力、関わる力に課題があると考え。
- ・新学習指導要領が来年度から本格実施となるため、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を通して、児童生徒に「生きる力」をつけていく必要がある。
- ・教職員の世代交代が進んでおり、研修を通しての人材育成も大きな課題である。
- ・小中で連携を図りながら、一人ひとりの主体的な学びを導き、集団の中で考えを練り上げ、協働的に学ぶ授業を展開することで、「人と関わる力」「相手の話しを聴く力」「自分の考えや思いを伝える力」を伸ばしていく。

研究構想図

